



青山学院は、本日創立135周年を迎えました。

21世紀にふさわしい魅力あふれる 総合学園を目指して

対談
松澤 建氏 × 木佐 彩子氏

青山学院は、本日11月16日、創立135周年を迎えました。この節目の年を「改革の幕開けの年」と位置付け、松澤建理事長は、教職員と一体となって、スピードある改革に取り組んでいます。青山学院卒業生であるフリーアナウンサーの木佐彩子さん、松澤理事長のもとを訪れ、深まる伝統の中、どのような改革が実践されているかをうかがいました。

「理事長声明」を掲げて 改革を推進

木佐 今年は青山学院が135周年を迎えた記念すべき年ですね。箱根駅伝の本戦出場も決定し、卒業生として、嬉しく思っております。松澤 33年ぶりの出場となった昨年に続き、今年も箱根駅伝出場が決定したことは、大きな希望と勇気を与えてくれました。昨年は私も幟（のぼり）をかついで応援しましたが、創立135周年を迎えた年に再び学院関係者が一丸となれる

改革により母校の魅力がさらに 増していくことに喜びを感じます。



Profile/1971年生まれ。
青山学院大学文学部英米文学科卒業後、フジテレビアナウンサーに。夫のメジャーリーグ移籍に伴い渡米。帰国後は、母親業の傍ら本格的にフリーアナウンサーとして復帰。

ことは、大変喜ばしいことです。木佐 10月には、「青山学院アスタジオ」が完成しましたね。松澤 創立135周年記念事業の一環として完成した「青山学院アスタジオ」は、青山の立地を最大限に活かし、青山学院にふさわしい文化の創造・発信拠点となる施設です。学生にとって実践的な教育の場となる「青山コミュニティラボ」の他、NHKサテライトスタジオなどが入っています。渋谷、青山、原宿、六本木といった地域の文化向上や活性化にも貢献でき

えられるにあたって、昨年は「理事長声明」を掲げられ、大きな改革に取り組まれているとうかがいました。松澤 青山学院大学では昨年より入試志願者数が約8000人増えました。しかし100年に一度といわれる経済不況や少子化は、少なからず教育機関にも影響を及ぼしています。したがってこのような時代こそ好機ととらえて、21世紀にふさわしい教育の充実・発展に向けて、迅速に改革を推し進めていかなくはなりません。

そのために昨年、「理事長声明」

として、キリスト教信仰にもとづく建学の精神のもと、「人間教育の再創造」「環境の整備」「戦略の強化」の三つを柱に、具体的な174項目の課題を掲げて、現在、学院全体で改革に取り組んでいます。

木佐 改革の一環として、1260名、すべての教職員の方々との意見交換会も行われたとうかがいました。

松澤 改革を進めていくには、現場の声を大切にしなくてはなりません。意見交換会では多くの有益な意見が出されています。これからも「青山学院の在り方」について考えていく貴重な機会として、毎年実施していきます。

さらなる国際化は 青山学院の大きな柱

木佐 青山学院は、米国メソジスト監督教会から派遣された宣教師3名によって創立されたという経緯から、国際的なイメージが強いのですが、ここ数年、さらに国際交流を積極的に推進なさっているとうかがいました。

松澤 昨年政府が発表した「留学

生30万人計画」を受けて、国際化にも力を注いでいます。欧米だけでなく、他の地域とも積極的に教育交流を推進させ、深い関係を築いていくことで、多様な文化を享受し、国際社会に貢献できる人材育成へとつなげていきたいですね。

今年、教育経済事情等調査団を編成し、私自らが団長となり、3月にはベトナム、5月にはモンゴルを訪問し、多くの要人と会談して「国づくりは人づくり」が大切だと意見が一致しました。

今後は、東南アジア、中欧、東欧諸国等からの留学生も積極的に受け入れていく予定です。海外拠点としては、台湾にサテライト・オフィスを設置しました。

木佐 「英語の青山」の伝統をさらに発展させるためにはどんな取り組みを行っていますか。

松澤 日本で初めて、「4-4-4制」にもとづく12年間一貫して学べる独自の英語教材を開発し、昨年からは、初等部に導入し、2014年までに12学年すべてに導入する予定です。

今後は他の教科やスポーツに関しても一貫校としての特色を打ち

出していきたいと思っています。昨年は文部科学省の「GP」に8件採択されるなど、新しい青山学院の価値も生まれてきています。

また単に学問的な知識を習得するだけでなく、確かな倫理観と豊かな世界観も身につけてほしいと願っています。

2012年4月就学 キャンパス再配置

木佐 青山キャンパスの再開発も進んでいるそうですね。

松澤 2012年4月からは、人文・社会科学系の7学部が4年間を通して青山キャンパスで学ぶようになります。より一貫した教育が行われるようになり、先輩・後輩の絆も深まります。2012年1月には、学生受け入れのための「大学A棟」完成を予定しています。

木佐 母校である青山学院のこれからの発展がとても楽しみです。

教職員と一体となり、勇気と信念をもって この改革に取り組んでいきます。

を迎えることができました。これからも、良い人材を育ていくために、伝統と歴史を堅持しながら、21世紀にふさわしい魅力と特色のある総合学園へと発展を遂げることができるよう、信念と勇気をもって、たゆまぬ努力と改革を推進していきます。

〔読売新聞〕11月16日朝刊掲載。本誌4ページ全紙面掲載〕

